

農業環境研究 10 年の歩み

研究統括主幹 長谷部 亮

独立行政法人農業環境技術研究所は、農業をめぐる環境問題が世界的に重要になり、食や環境の安全性に関する国民の関心が高まる中で、農業環境に関する基礎的な研究を担う独立行政法人として、農林水産省農業環境技術研究所を母体に、平成 13 年 4 月に設立された。

研究所は、第 1 期中期目標（平成 13 年度～平成 17 年度）に基づき、「農業生態系の持つ自然循環機能に基づいた食料と環境の安全性の確保」、「地球的規模での環境変化と農業生態系の相互作用の解明」、「生態学・環境科学を支える基盤技術」に関する研究を重点的に推進し、行政や国民のニーズに応じてきた。特に、ダイオキシンや放射性物質、カドミウム等化学物質による農産物汚染、遺伝子組換え作物や外来生物の生態系影響や地球規模の環境変動と農業生産との関係等に関する問題の解決に貢献してきた。

今日、農産物や環境のリスクに関する社会の関心はますます高まり、農業環境の保全及び改善や次世代への継承が大きな課題となっている。このため、第 2 期中期目標期間（平成 18 年度～平成 22 年度）においては、農業生産を支える環境の安全性を確保するため、農業環境のリスクの評価及び管理に関する研究開発を重点的に推進し、リスク低減のための技術開発を加速するとともに、これらのリスク研究の基礎的・基盤的研究として、農業生態系の構造と機能の解明に関する研究、農業環境資源の長期モニタリング及び農業環境インベントリーの構築と利用のための研究を充実・強化した。

これにより得られた成果については、速やかに社会・国民生活に活かせるよう広く情報発信するとともに、行政や国際機関における農業環境に関わる政策に反映されるよう努力してきたところである。

ここでは、（独）農業環境技術研究所の 10 年間の研究について、以下の環境施策課題に整理し、その歩みを概観する。

1. 土壌汚染から農産物を守る
2. 外来生物から農業生態系を守る
3. 地球温暖化による農作物影響を明らかにする
4. 農地から出る温室効果ガスを減らす
5. 農業活動が育む豊かな生き物・環境を明らかにする
6. 農業活動による水系汚染を減らす
7. 農業生態系の多様な生き物の謎を解き、環境保全型農業に役立てる
8. 農業環境施策に必須な基盤情報を充実する